

高圧絶縁油K

変圧器、しゃ断器用油

当社の絶縁油の製造は、1919年（大正8年）にすでに行われており、1927年（昭和2年）には「国内外製絶縁油の比較試験」その他の研究報告により、当時すでに外国品に劣らない絶縁油を製造していました。その後、数多くの研究によって品質向上が続けられ、高圧絶縁油Kは、現在国内の多数の電気機器メーカーに納入されております。

●特長

1. 絶縁破壊電圧（絶縁耐力）が高い

絶縁油の特性のうち、最も大切なひとつとして、この値の高いことが必要です。普通JISで規定されている30kV以上あれば、十分とされていますが、高圧絶縁油Kは、厳格なる品質管理によって、絶縁破壊電圧が、50kV以上のものを出荷し、輸送や貯蔵中に多少の低下があっても、30kVを下回らないようにしています。

絶縁破壊電圧は、測定器、測定の際の操作、環境などによって敏感に影響され、低い値を示すことがあるので、JISで定められた方法に従って正しい試験を行うとともに、ごみ、水分、その他の不純物が混入しないように取り扱いには十分注意しなければなりません。

2. 酸化安定性が優れている

変圧器に封入した絶縁油は、長い間に少しずつ酸化して、酸、スラッジや水分を発生して、変圧器の機能を低下させるので、劣化しがたい安定性の良い絶縁油を選ぶことが必要です。

高圧絶縁油Kは、厳選した原油から長年の経験と技術を生かして製造しているため、スラッジを発生しにくく、長期の使用にも安全です。

3. 冷却作用が優れている

油の比熱、熱伝導率がそれぞれ大きいほど、絶縁油の冷却作用は大きくなります。しかし、前記2つの性質は、油の種類による差が小さく、油の対流による効果が主体となるので、粘度が低いほど、冷却作用が大きくなります。

高圧絶縁油Kは、引火点、蒸発量をも考慮して、できるだけ粘度を低くしてあるので、優れた冷却作用があります。また粘度が低いので、しゃ断器でしゃ断した時に生じるカーボン粒子を、速やかに沈降させます。

4. 寒冷地でも安全である

流動点が十分低いので、寒冷地でも油が流動性を失うことなく、安全に使用することができます。

●用途

○ 高圧絶縁油K

一般用変圧器および油入しゃ断器

●荷姿

タンクローリー、200lドラム、18l缶

●高圧絶縁油Kの代表性状

JIS C 2320分類		1種2号
密度(15℃)	kg/l	0.906
粘度(40℃)	mm ² /s	8.05
(100℃)	mm ² /s	2.12
流動点	℃	-50.0以下
引火点(PM)	℃	132
全酸価	mgKOH/g	0.00
腐食性(140℃, 19h)		非腐食性
酸化安定度(120℃, 75h)		
スラッジ	mass%	0.10
全酸価	mgKOH/g	0.31
絶縁破壊電圧	kV	60
消防法危険物分類		第3石油類

※代表性状値は、商品の改定等により予告せずに変更場合があります。

(2005年8月)



取扱上の注意

▼取扱いについては下記の注意事項に従って行って下さい。

成分：	潤滑油基油、潤滑油添加剤
絵表示：	
注意喚起語：	危険
危険有害性情報：	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
注意書き： 安全対策	<ul style="list-style-type: none">・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。・眼に入れないこと。飲み込まないこと。・取り扱い後はよく手を洗うこと。・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
応急措置	<ul style="list-style-type: none">・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。・飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。・眼に入った場合：多量の流水で洗眼し、直ちに医師に連絡すること。・皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
保管	<ul style="list-style-type: none">・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。・一度栓を開けた容器は必ず密栓しておくこと。
廃棄	<ul style="list-style-type: none">・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。・不明な場合は購入先にご相談の上処理すること。